

# グループワーク についての振り返り

---

## 協議の方法

- テーマ：「横浜市の市民協働のあり方や課題等について」
- 参画：全20人が参加（うちファシリテーター1名）
- 日時：2025年3月21日（金）9時半～12時
- 場所：横浜市役所内（会議室）
- 内容
  - ① これまでの市民協働推進の答申等の振り返り
  - ② 3つのテーマを協議
  - ③ 最後のまとめ
  - ④ 横浜市市民協働推進委員会委員長からのコメント
- 方法：協議はワークショップ（KJ法及びクドバス手法を活用）

# GW参画者

(行政、大学、NPO、民間、横浜市市民協働推進センター、区市民活動支援センター等)

	Aチーム	Bチーム	Cチーム
1	鈴木 伸治【委員長】 (横浜市立大学 国際教養学部 学部長 教授)	大塚 朋子【委員】 (NPO法人こまちぷらす マネージャー)	後藤 智香子【委員】 (東京都市大学 環境学部 准教授)
2	高橋 敬太郎【委員】 (横浜市社会福祉協議会 地域活動部長)	竹原 和泉【委員】 (NPO法人まちと学校のみらい代表理事)	菊池 賢児【委員】 (戸塚区連合町内会自治会連絡会 会長)
3	森川 正信【委員】 (関内イノベーションイニシアティブ 株式会社 代表取締役)	山田 美智子 (NPO 法人市民セクターよこはま 理事・西区 市民活動支援センター センター長)	鈴木 智香子 (NPO法人市民セクターよこはま 理事長)
4	韓 昌熹 (横浜市市民協働推進センター副セン ター長)	小川 由起子 (横浜市市民協働推進センター スタッフ)	伊吾田 善行 (横浜市市民協働推進センター センター長)
5	守屋 大介 (市民局 地域支援部長)	宮島 大輔 (市民局 市民協働推進課長)	高田 美恵 (横浜市市民協働推進センター スタッフ )
6	奥村 未緒 (市民局 市民協働推進課 担当係長)	倉形 紘平 (市民局 市民協働推進課 担当係長)	中西 勇人 (市民局 市民協働推進課 担当係長)
7	菊地 直美 (市民局 市民協働推進課 職員)		

ファシリテーター：齊藤ゆか【委員】(神奈川大学 人間科学部 教授)

# GWテーマ

## 方向性

A 中間支援組織である横浜市市民協働推進センターの目指すべき支援の方向性

## 人材

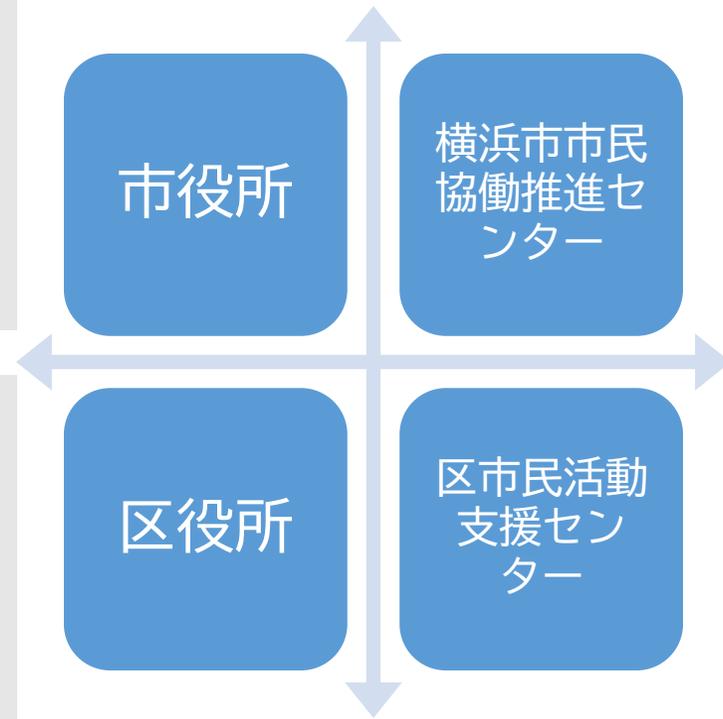
B 横浜市市民協働推進センターをはじめ、中間支援組織に求められる人物像とその育成支援

## 取組み

C 市民協働推進のための効果的な取組と取り組む優先順位



## 市民協働を進めるための体制のあり方

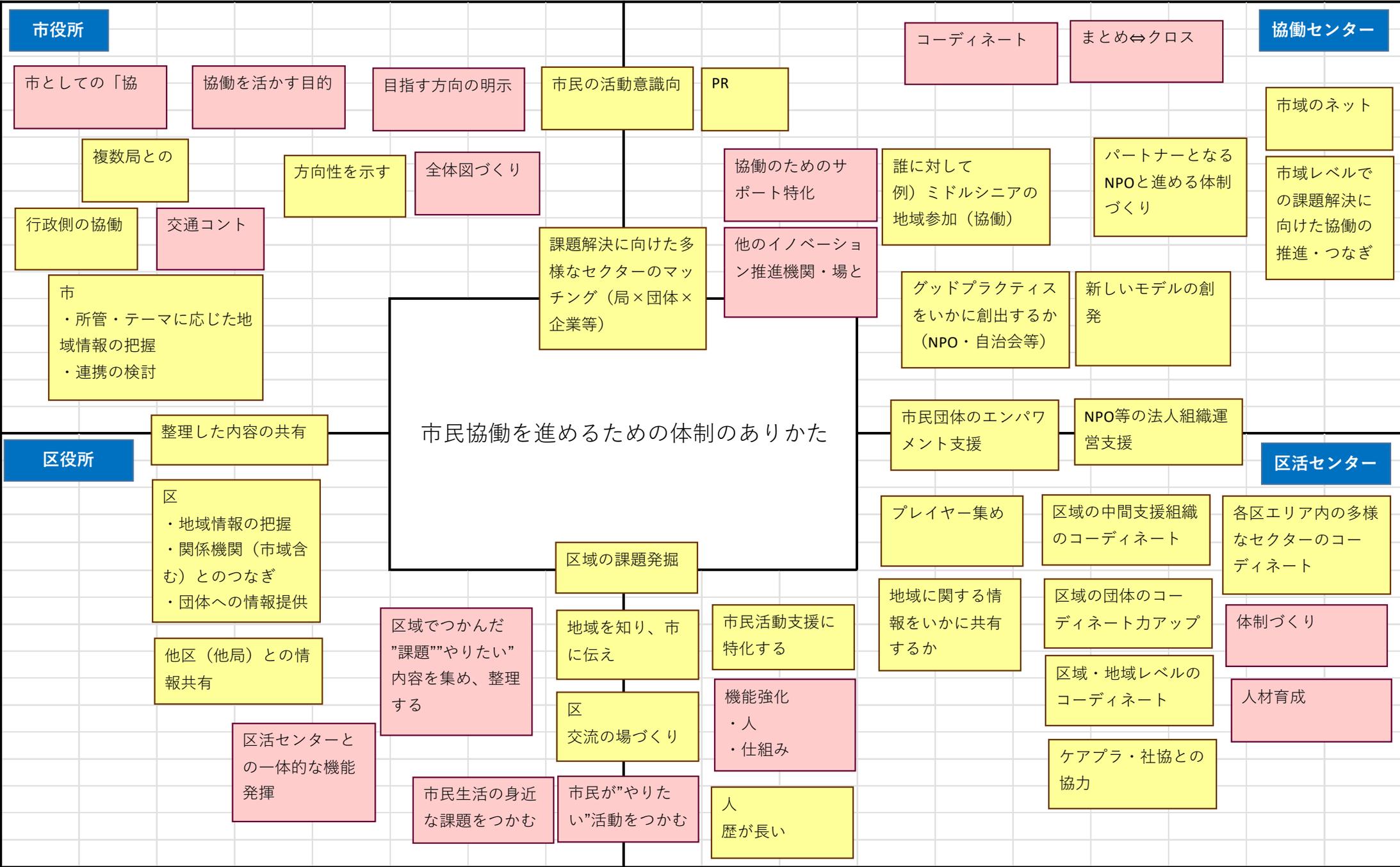


- ビジョン（全体像）  
⇒横浜市の目指す**方向性**を明示
- 目的共有：なぜ協働を促すか
- 人材育成：行政側の協働マインド
- 広報：「協働」の**価値**を発信
- 機能：複数局間の調整・交通・コントロール、課題解決に向けた**多様なセクターとのマッチング**。

- 地域情報の把握：他局や団体へ情報共有。
- 地域特性の把握・整理：**市民生活の身近な課題**をつかむ。市民が「やりたい」活動をつかむ。  
⇒**区域でつかんだ「課題」「やりたい」**内容を集め、整理する。
- 機能強化：**区役所と区市民活動支援センターとの一体的な機能発揮**。関連機関とのつなぎ

- 協働のためのサポートに特化
- 他イノベーション推進機関、場と連携
- 体制づくり：**市域のネットワーク、市域での課題解決に向けた協働推進・つなぎ**、パートナーとなるNPOと進める体制づくり、**新しいモデルの創発**、団体の垣根を超えたグットプラクティスの創出（NPO、自治会など）
- 市民団体のエンパワメント支援、NPO等法人の組織運営支援。

- 機能強化**：**人集め・コーディネートの分かる人またはそれに代わる仕組みづくり**
- 地域課題の発掘：地域を知る、伝える、交流の場づくり。
- 体制づくり**：**区域の中間支援組織間のコーディネート**、団体・地域レベルのコーディネート。地域ケアプラザや社会福祉協議会と協力。
- 人材育成**：プレイヤーを集める。地域情報を共有する。



# B 横浜市市民協働推進センターをはじめ、中間支援組織に求められる人物像とその育成支援

① 施策方向性理解

- 市役所 把握している
- 制度について知っている (コネクション)
- 市政の方針、方向性を把握している
- 設置目的を知っている

② 理解力、分析力、情報収集

- 活動者、関係者の関心や理解をいかに深めるか
- 個人、組織、地域の課題をいかに把握し、理解し、共有できるか
- 相手の何を求めているのかをいかに理解できるか
- コミュニケーションの相違点を知っている
- 視座の相違点を知っている (多様な視点)
- 各セクターに求められる役割を知っている

③ 共感

- 相手の思いや気持ちを知っている
- 市民の気持ちや理解がある
- 活動者、関係者の思いや気持ちを知っている
- 共感力がある (寄り添うことができる)
- 地域の思いや気持ちを知っている
- 生活者の視点も持っている
- 相談内容に共感している
- 受容的な態度がとれる

④ 全体像を把握する

- 地域全体の状況や課題を知っている
- 活動者、関係者の役割や関わりを知っている
- 地域全体の課題や課題をいかに把握しているか
- 活動者、関係者の役割や関わりを知っている
- 団体や組織の存在を知っている
- ネットワークを知っている

⑤ 市民協働の意義 (価値)

- 市民協働の意義を知っている
- 行政や企業との協働の意義を知っている
- 民間企業、団体との思いや気持ちを知っている
- NPO、企業、団体の意義を知っている
- NPO 独自の意義を知っている

⑥ ネットワーク構築

- 地域のネットワークを知っている
- 各セクターの連携のあり方を知っている
- ネットワークがある (地域を知っている)
- セクター間の連携のあり方を知っている
- 他セクターの連携のあり方を知っている
- 各地設置の場所を知っている

⑦ 区話

- 区話の現状を知っている
- 区話の課題を知っている
- 区話を知っている

個人の資質

受容力

- 相手の思いや気持ちを知っている
- 異なった意見にも耳を傾けることができる
- 自分の思いや気持ちを抑えて相手の思いや気持ちを知ることができる
- ひょういできる
- 相手の思いや気持ちを知ることができる
- 相手の思いや気持ちを知ることができる
- 相手の思いや気持ちを知ることができる
- 相手の思いや気持ちを知ることができる

知識・情報

- 一定の知識や情報を持っている
- 専門的知識がある (相談にのることができる)
- 分析力がある
- 企画力がある
- 発信力がある (広報)
- 法人団体のネットワークを知っている
- 情報源や情報を知っている
- 知財や金銭を知っている
- DXを知っている

コミュニケーション

- キーパーソンを知っている
- コーディネート力がある (道徳的)
- 人柄や個性を知っている
- 相手の思いや気持ちを知っている
- 相手の思いや気持ちを知っている
- 相手の思いや気持ちを知っている

学習姿勢

- 何事にもおもしろがる
- 活動を楽しむ
- 新しいことを学ぶ姿勢がある
- 自分自身の生活を豊かにしている
- 自分自身の生活を豊かにしている
- 自分自身の生活を豊かにしている

リーダー

- リーダーの役割を知っている
- リーダーの役割を知っている
- スタッフ間に風通しがある
- スタッフ同士の関係を知っている
- スタッフ同士の関係を知っている

視座の広さ

- 自分の知識や情報を知っている
- 自分の知識や情報を知っている
- 自分の知識や情報を知っている
- 自分の知識や情報を知っている
- 自分の知識や情報を知っている

コミュニケーション

- よくコミュニケーションができる
- 一度会話した人のことを覚えている
- コミュニケーションがある

# B 横浜市市民協働推進センターをはじめ、中間支援組織に求められる人物像とその育成支援

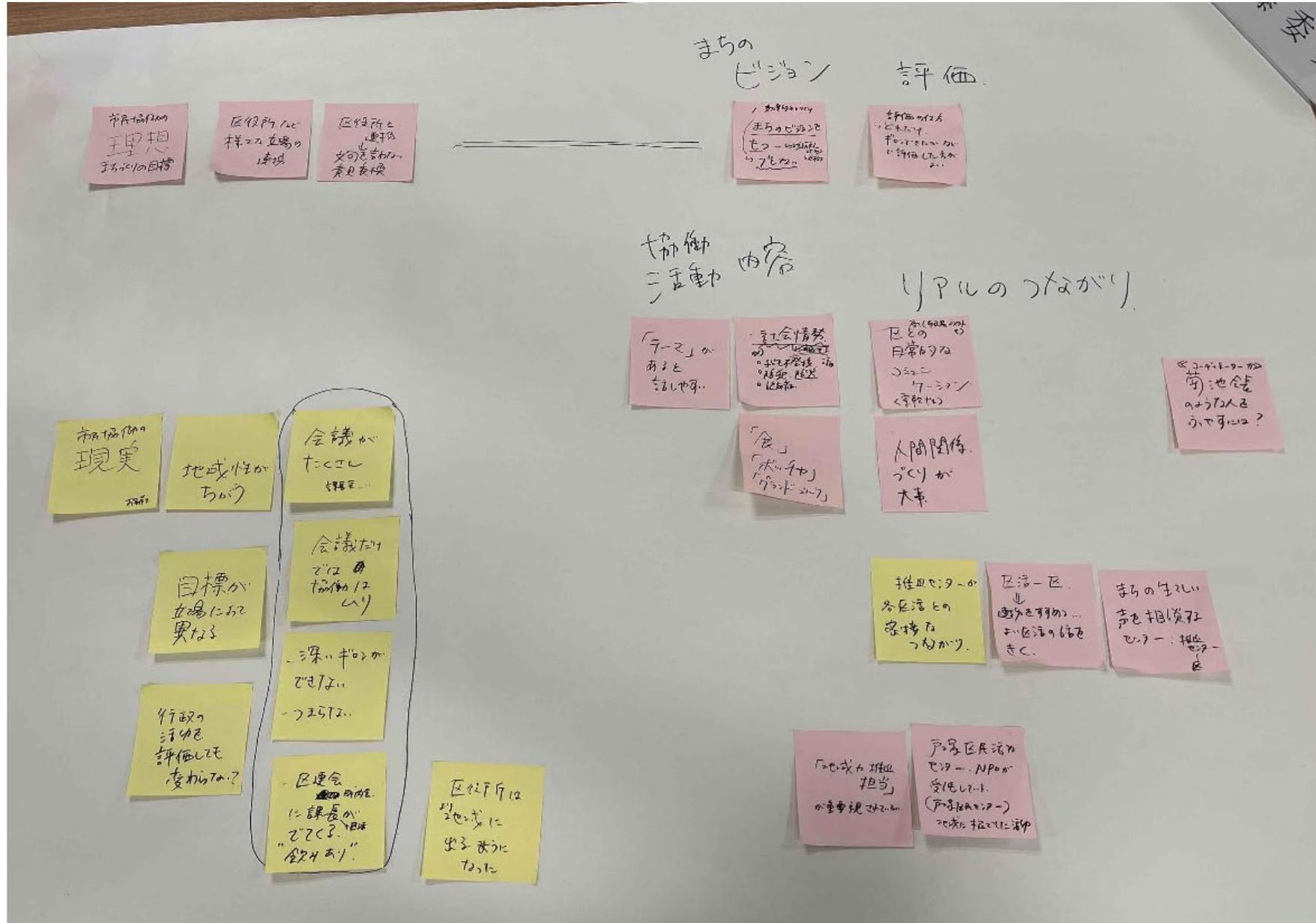
1	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10
市政の方針や方向性を理解する	市政の方針・方向性を知っている	市政の制度を把握している	区活センターの役割や現状を理解している	制度や団体活動について歴史や経緯を知っている	協働推進センターの設置目的を知っている					
2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10
市民活動の意義を理解する	市民活動の意義を知っている	行政や企業では出来ない先進性がある	自分のミッションに対する理解を高いレベルでできる	NPO・企業・団体との思いやミッションを理解できる	NPO等の市民活動・自治会の実態を把握している					
3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10
市民協働の全体像を俯瞰する	社会全体の流れにアンテナを把握できる	広い視野と深い現場を歩き来して物事を見ることが出来る	市域をみる広い視点と地域をみるローカルな視点が両面がある	相談者に対して新たな視点からアドバイスできる	フットワーク良く動くことができる					
4	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10
地域情報の収集とフットワークがある	地理(地形や地のり)を知っている	市域・地域の特性を知っている	地域特性や生活場面の声を拾うことができる	地域の課題を把握している	市民活動団体の情報を持っている	地域の情報やニーズをキャッチアップできる				
5	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10
市民及び市民団体を共感する	各市民団体の良さと思いを伝えている	相手の思いを言語化することができる	市民の気持ち理解できる	地域・市民活動の思いを共感できる	寄り添いや共感力を持っている	生活者の視点を持っている	相談者に受容的・共感的な態度をとれる	しんどさを抱える市民の心が分かる		
6	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7	6-8	6-9	6-10
センター間の連携をする	協働推進センターは区活とつながっている	各局の地域性に応じて連携がとれる	地域でのネットワークがある	各センターと連携して方向性を見定められる	各施設等の強みを知っている	センター職員同士のレベルアップを図る学び合いができる				
7	7-1	7-2	7-3	7-4	7-5	7-6	7-7	7-8	7-9	7-10
他者への受容力をもつ	異なる価値観やバックグラウンドを持つ他者を受け止めるマインドを持つ	異なった意見にも耳を傾けることができる	自分の物差しを複数持っている	悉依できる	柔軟な思考を持っている	気遣いを大切にできる	相手と同じ目線に立っている	誰とでも雑談できる		
8	8-1	8-2	8-3	8-4	8-5	8-6	8-7	8-8	8-9	8-10
市民活動・NPOの専門的な知識を有する	一定レベルの最新の情報・助成情報などの知識を持っている	専門的な知識があり、相談に乗ることができる	地域ニーズに応じた企画力を持っている	分析したり、ロジカルな思考を持っている	広報等の発信力を持っている	法人設立のアドバイスができる	様々な市民活動・NPO等の情報を紹介できる	助成金等の情報を知っている	DXを使いこなせる	
9	9-1	9-2	9-3	9-4	9-5	9-6	9-7	9-8	9-9	9-10
コーディネーターする	人脈を広げつつ、常に良いコミュニケーションをとれる	ファシリテーション力を持っている	いつもフラットでいられる	地域(市域等)のキーパーソンを知っている	適切なコーディネーターでできる	人や情報や団体を各所でつなぐことができる	様々な市民団体を知っている	リーダーの役割や難しさを知っている		
10	10-1	10-2	10-3	10-4	10-5	10-6	10-7	10-8	10-9	10-10
視野の広さと学ぶ姿勢を持つ	地域に想いをもち、活動や仕事ができる	何事も面白がり、市民活動の楽しさややりがいを持っている	常に新たな学ぶ姿勢があり、知らないことを学ぶことができる	スタッフ間の風通しの良さがある	自分の知識や経験を生かして仲間や同僚に情報提供できる。	スタッフ間で学び合える	インクルーシブな視点で対応できる	障がい者や困難を抱える方の理解がある	自分自身の生活を豊かにできる	

# 横浜市市民協働推進センターを運営する人物像 (人材育成)

---

- 1 市政の方針や方向性を理解する
- 2 市民活動の意義を理解する
- 3 市民協働の全体像を俯瞰する
- 4 地域情報の収集とネットワークがある
- 5 市民及び市民団体を共感する
- 6 センター間の連携をする
- 7 他者への受容力をもつ
- 8 市民活動・NPOの専門的な知識を有する
- 9 コーディネートする
- 10 視野の広さと学ぶ姿勢を持つ

# C 市民協働推進のための効果的な取組と取り組む優先順位



# 市民協働推進のための効果的な取組 (取り組む優先順位)

---

## <主な意見>

- ・ 課題解決するために目標があるんじゃないくて、目標があるから課題が出てくる
- ・ 課題は地域によって全然違う。(横浜市は18区の地域性がそれぞれ異なる)
- ・ 草の根から区のレベルの話と市のレベルの話がうまく連動するとよい
- ・ まちづくりの方針や、今年度の重点テーマを共有すると話しやすい
  - ⇒ 方針はぶれないことが大切
  - ⇒ テーマは昨今の社会情勢を踏まえて設定
  - ⇒ 協働を推進するためには協力者間の理解が大切
- ・ 区市民活動支援センターと横浜市市民協働推進センターが関係性をつくるためには、好事例や、特徴的な取組など、たくさんのお話をみんなで発表・共有するような場があるとよい
- ・ 地域の悩みを受け付ける窓口になって、リアルな悩みを色々な人に伝える機会を増やす
- ・ 区も含めて共有できるビジョンがあるといい

市民協働の理想  
まちづくりの目標

区役所など様々な  
立場の連携

区役所と連携→文  
句を言わない意見  
交換

市民協働の現実

地域性が違う

目標が立場によっ  
て異なる

行政の活動を評価  
しても変わらない？

会議がたくさん  
課長会...

会議だけでは協働  
はムリ

・深い議論ができ  
ない  
・つまらない

・区連会・町内会  
に課長+区活セン  
ターがでてくる  
"飲みあり"

区役所はより地域  
に出るようになった

### まちのビジョン

・効果的な取組  
まちのビジョンを持  
つー地域福祉計画  
→ブレない

### 評価

評価の仕方  
→どれだけ議論でき  
たかなどで評価した  
方がよい

### 協働活動

「テーマ」があ  
ると話しやすい

### 内容

・社会情勢にあわ  
せる活動  
例)  
・子ども不登校  
・防犯・防災  
・認知症

「食」  
「ポッチャ」  
「グランドゴル  
フ」

### リアルをつながり

区・局（市民局以  
外も）との日常的  
なコミュニケーション（柔軟性）

人間関係づくりが  
大事

推進センターが各  
区活センターとの  
密接なつながり

区活ー区  
↓  
連携を進める...  
よい区活センターの  
話を聞く

「コーディネーターカ」  
菊池会長のような人をふ  
やすには？

まちの生々しい声を  
相談するセンター：  
推進センター（区活  
センター？）

「地域力推進担当」が  
重要視されているか

戸塚区活センター、  
NPOが受託している  
（戸塚区民センター）  
地域に根差した活動